

ふるさとタウンにて、「新しい認知症観について」と題し、人権研修を行いました。

前半は、昨年11月に開催されました、三重県認知症ピアサポート事業

厚生労働省認知症希望大使・丹野智文様 認知症講演会の動画を視聴しました。

後半は、多度町在住 三重県認知症希望大使 高井勝男様をお招きし、お話を伺いました。

高井様は、67歳の時に、認知症の診断を受けられたそうです。

診断を受けた当初は、「私は認知症じゃない!」と、複数の病院を受診したと伺いました。

しかし、16年経過した現在、認知症であるという事を受容し、「新しい認知症観」を実践しながら、

三重県認知症希望大使として、精力的に啓発活動を行ってみえます。

三重県HPに、丹野様講演会・丹野様と高井様との対談の動画がアップされておりますので、

皆様も是非ご覧ください。

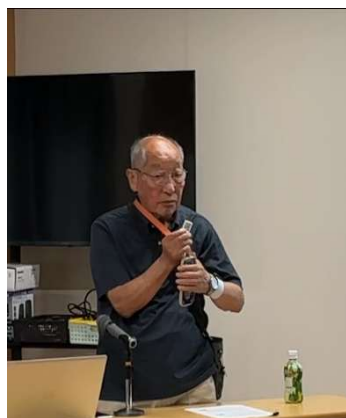


令和7年11月2日三重県認知症ピアサポート事業

- 1 認知症講演会「認知症の私が、今を楽しく生きる理由(わけ)」
厚生労働省任命認知症本人大使「希望大使」、
みやぎ認知症応援大使 丹野 智文様
- 2 認知症希望大使による対談
丹野智文様と、
三重県認知症希望大使 高井勝男様による対談



古い認知症観		新しい認知症観	
他人ごと	なりたくない、先送り	わがごと	認知症と向き合い、備える
他者視点	物事を周囲が決める、 本人は話せない	本人視点	本人は声を出せる 本人が一番困っている 本人が決める・決められる よう手助けする
問題重視	言動に周りが困ってしまう、 危ないことをする	可能性重視	わかること、 できることが豊富 自由と安全のバランス 楽しく、のびのびと暮らす
疎外	恥ずかしい・隠したい、 地域では暮らせない	共に共生	本人は支え手のひとり 地域の一員として暮らす
絶望	何もできなくなる、 あきらめ、 支援をされる一方	希望	あきらめない、地域の中で 活躍



高井様左手リストバンドは、手首に巻き付けるタイプのシリコンメモです。

どこに居ても、その場ですぐにメモを取る事が出来るそうです。

右手にお持ちのキーホルダーは、氏名・年齢・住所・服薬履歴など

ご自身のパーソナルデータが登録されているQRコードです。

もし、自分が倒れた場合、このQRコードを読み取ってもらえば、

すぐに家族に連絡が取れるとご紹介下さいました。

いつもお持ちのポシェットには、スマートフォン 自宅の鍵 QRコードなど、

必要な物を無くさないようにと結びつけていらっしゃいました。

高井様から、日常生活の色々な工夫をお聞かせ頂き、大変参考になりました (^^♪